



| | |
|---------|------------------------|
| 土岐市 | 教育研究所 |
| TEL | 0572-54-1111 (内374) |
| FAX | 0572-55-6310 |
| メールアドレス | kyoiku@city.toki.lg.jp |
| 所報 | No.580 |
| 発行責任者 | 所長 西尾 実 |
| 発行日 | 令和7年 3月 17日 |
| 題字 | 長谷川 広和 教育長 |



『ジュースやさん』

どれにしますか?』

異年齢交流

スターマンランド』

撮影 妻木こども園

春木 未来 先生

子どもにとって大切な自由な時間

土岐市教育研究所長 西尾 実

ユニセフが公表した子どもの幸せ度に関する報告書によると、日本の子どもの「身体的健康」は1位でありながら、「精神的幸福度」は先進・新興国38カ国中37位だそうです。

ある会議で、「土岐市にはきれいな公園がたくさんあってとても住みやすいところだと思います。」と発言された方がおみえになりました。確かに市内のいたるところに、子どもが自宅から歩いて行けるとところに公園がありますが、公園で日が暮れるまで元気に遊ぶ子どもの姿を見かけることはあまりありません。平日の放課後、多くの子どもは、放課後教室で過ごしたり、保護者のお迎えで習い事に向かったりします。高学年の子で帰宅後、近くに遊ぶ場所があっても、近所に子どもはいません。だから、暗くなるまで外で自由に遊んでいる姿を見かけなくなったのでしょう。

2月に土岐ロータリークラブ主催の土岐カルタ大会が、市内小学生1年生から3年生までの約150人が参加して行われました。2度のグループ対戦の後、決勝が始まる前に少し時間がありました。決勝に残る児童以外は、広い大ホール内で自由に過ごす時間になりました。すると、誰からともなく、大ホール内で鬼ごっこをする子どもたちが出現しました。児童の保護者も含め、400人近くの人がいる中で、夢中で駆け回る児童の全力疾走は、転んだり、ぶつかったりしないか心配になるほどでした。中には、上半身裸で駆け回る子もいましたが、

周りで見ている保護者は、誰も止めようとはしません。よく見ていると、子どもたちは、人の隙間を縫って、衝突することなく全力で走り続けているのです。人混みの中でスピードを落とさず巧みにすり抜けるステップは、体育の授業の中で、教えてできるものではなく、本気で遊ぶ中で身に付けていくものだと感じてしまいました。

遊びの中で身に付けるたくましさとはこういう事だと思いました。子どもには、自由な時間と自由な空間、それから自由な意志が尊重される遊びが必要です。土岐市の子ども計画（令和7年度から令和11年度）において、大切にしたいことの1番目に「子ども・若者が今もこれからも安心できるようにする」を掲げています。就学前児童保護者アンケート結果では、半数以上の方が、子どもの遊び場の充実を子育て支援策として希望していると答えています。

子どもにとって、学校で一番楽しい時間は、授業と言ってもらいたいところですが、休み時間ではないでしょうか。学校にいる時間は、たくさんの仲間が周りにいます。そして、休み時間は、大人に管理されない自由な時間です。たとえ短い時間でも、知恵を出して工夫すれば、楽しい時間を作り出すことができます。自由な時間は、何かが起こった時に自分の頭で考え行動する「見えない学力」を身に付けることができます。子どもたちが学校にいる限られた時間の中で大切にしていきたいものです。



みんなが笑顔の 駄知小学校に!



駄知小学校長
清本 直子

はじめに

勤務の本拠地としている土岐市に戻り、1年が過ぎようとしています。新任教頭・校長の赴任先が管外であったことに加え、帰ってくるたびにいろいろなシステムが変わっていて、それを理解し対応できるようになるまでに、周りの方に大変ご迷惑をおかけしています。未だに…のこともあり情けないですが、仕方がありません。関わってくださるすべての方に感謝しながら、自分にできることを精一杯やるしかないと考えています。

みんなの笑顔のために心がけていること

1. 笑顔を絶やさず、明るくさわやかに

子どもは教師の鏡である
笑顔あふれる教師から 笑顔あふれる子どもが育ち、
学び続ける教師から 学び続ける子どもが育つ

先輩から言われ、日頃子ども達と接する際、意識している言葉です。

学校では毎日本当に様々なことが起き、その対応に追われることも多いですが、担任時代からずっと変わらず、できるだけ子ども達の活動の場に出向き、それぞれの表情や声を直接観たり聴いたりしようと心がけています。そして、子ども達の言動の裏にある思いに寄り添った声かけができるようにしたいと考えています。特に、自分から新しいことに挑戦したり、仲間と知恵を出し合いながら試行錯誤したりする姿を見逃すことなく、笑顔で声かけ、価値付けすることを意識しています。

気のせいかもしれませんが、よさを見つけることが少しだけ上手くなった気がしています。

2. 地域に顔を出し、情報や信頼を得る

登校指導中、地域や保護者と顔見知りになることを意識しています。ちょっとした会話の中で得られる情報を大切に(感謝し)、地域とともにある学校を目指したいと考えています。

社会が大きく変化し、学校に求められることも変わってきているとはいえ、目の前にいる子ども達のよりよい成長を願う思いに変わりはないと信じています。地域の方や保護者と願いを共有し、一緒に、

大切な未来の担い手である子ども達を導いていくことができれば…と思っています。

3. 「聴く」ことを大切にする

教えることが仕事である私たち教員は、何かあると、どうしても自分の考えや思いを伝え、説得しようとしてしまいがちです。まずは、相手の話をきちんと「聴く」ことを意識することで、相手は、「自分が大切にされている」ことを実感でき、その積み重ねが信頼関係を築くことにつながっていくのではないかと考えています。そして、こちらの話を受入れてもらえるようになるだけでなく、指導やアドバイスをしなくても、自分から進んで…というように、主体的な姿がみられるようになっていくのではないかと考えています。

4. 子どもは好きな人からしか学ばない

「好かれようと思うな 好きになれ」
野口 克海 氏 (元堺市教育長)

「好かれようとする、子どもへの迎合になってしまう。子どものよいところを見つけて認める関わりを意識することで、その子を好きになることができる。それは相手にも伝わり、結果、子どもができてくれるようになる」とのことです。

子どもだけでなく、すべての人との関りにおいて、自分の姿勢について考える指標にしています。

おわりに

主体的な姿勢を育てるためにも、子ども達には、学校でしかできないこと、学校だからできることをたくさん経験させたいと思っています。

校区には、学校の活動に大変協力的で、子ども達のためになら…と、気持ちよく体験の場を提供して下さる地域の方がたくさんおみえになります。おかげで子ども達は、他ではできない貴重な体験をさせていただいています。

これからも、たくさんの方に支えていただけていることに感謝しながら、みんな(子ども・職員・保護者・地域の方)が笑顔の駄知小学校を目指して、様々な取組をしていきます。

異年齢交流で育まれる力

土岐津小学校附属幼稚園 前田 宏香

今年度の土岐津小学校附属幼稚園は、全園児が27名の小規模園となりました。小規模園のよさとは何であるか職員間で話し合い、クラスや学年に関係なく全職員で27名を保育していくこと、全園児と一緒に活動する異年齢交流を取り入れていくこと、保護者に園での子ども達の姿を知ってもらうことに重点をおくこととしました。

異年齢交流は、幼児期というこれからの基礎となる大切なこの時期に「人と関わる力を育みたい」という思いからの取り組みです。また年齢の異なる子ども達と一緒に遊んで遊び関わる中で、年下の子は年上の子に憧れて真似をしたりします。子ども達は、遊びや生活を通して人との関わり合いを学び、生きていくために必要な力を身につけていきます。

異年齢保育のよさ

年長児

- ・年上として自尊心が芽生え、自尊心・責任感が育つ
- ・年下の子を配慮することで、思いやりの心が育つ
- ・教えることで遊びが深まり創意工夫をするようになる
- ・教えることで自分に自信をもつようになる

年少児・年中児

- ・年上の子に憧れを抱き、意欲的に真似しようとする
- ・優しくしてもらうことで、自分も年下の子へ同じように接することができる
- ・自分のことは自分で行う姿を見て自立心が育つ



これらの育ちを育んでいくために、1学期は異年齢でのペア活動を中心に交流してきました。教師が意図的に交流の場を作ることでクラス以外の友

達の存在を知るきっかけとなりました。2学期の運動会では異年齢で「らいおんグループ」「チーターグループ」を作り、5歳児が中心となり意見を出したり作り方を知らせたりして、グループの旗を制作しました。またグループに分かれて行う競技を多く取り入れ、一緒に練習や活動をすることで意欲や優しさ、大きい子への憧れの気持ちが育ってきました。3学期は異年齢交流で行った“お店屋さんごっこ”の売る、買うだけでなく自分達で作って売りたいという思いが生まれ、“レストランごっこ”へと広がりました。店員役のペアで注文されたメニューを協力して作ったり、お客さん役のペアで、メニュー表の文字を読みながら注文したりしてやり取りを楽しんでいくうちに、子ども達のもっとお客さんに来てほしいという思いが強まり”クリスマスレストラン“にお家の人を招待することになりました。保護者が来てくれることに子ども達の期待は高まり、また保護者も子ども達がどんな”レストラン“に招待してくれるのか楽しみにして参加しました。保護者を巻き込んで子どもの遊びや育ちを伝えていくことで、親子の会話が増えたり、園での子ども達の姿に安心したり、親と子と園の絆も深まっているのではないかと考えます。1学期の子ども達の姿から意図的に段階を追った異年齢交流を行っていくことで、自分の意見を持ちながら相手を思いやり、遊びを発展させていくまでの力が育っています。



令和6年度 土岐市教育実践論文審査入賞者

| 部門 | 審査結果 | 学校名 | 氏名 | 教科・領域 | 論文テーマ |
|------|------|------|-------|-------|---|
| 一般の部 | 優秀賞 | 泉中 | 江崎 紀子 | 音楽 | 主体的・対話的で深い学びを実現する生徒の育成 ～目的・視点を明確にする協働的な学びと、ICTのベストミックスを図る個別最適な学びの一体的な充実を通して～ |
| | 優良賞 | 下石小 | 田口 俊介 | 国語 | 学習を調整しながら主体的に学び、読む力を高めることができる児童の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った「読むこと」の授業の実践を通して～ |
| | 優良賞 | 泉小 | 渡辺 英弘 | 特別支援 | 自立活動の時間を軸とした関わる力を育む指導 |
| | 優良賞 | 土岐津中 | 高木 良太 | 社会 | 社会科における思考力・判断力の育成 ～さまざまな対話を取り入れた社会科授業の在り方～ |
| | 優良賞 | 泉中 | 坂田 芳朗 | 保健体育 | 球技における男女共習で高め合う学習集団の育成 ～競技「アルティメット」の指導を通して～ |
| | 優良賞 | 泉中 | 廣岡 巧也 | その他 | 誰もが安心して学校で過ごすための教育相談体制の在り方 ～教育相談コーディネーターの役割と校内支援センター利用生徒への支援に焦点を当てて～ |
| 新人の部 | 新人賞 | 泉中 | 山越 栞奈 | 保健体育 | 男女共習の授業の中で、主体的・対話的に課題解決に向かう生徒の育成 |
| | 入選 | 濃南小 | 宮下 蒼 | 生活 | 生活科から理科へのスムーズな接続を目指して ～観察の視点から～ |
| | 入選 | 駄知小 | 大竹 洋輔 | 体育 | 仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育学習の創造 ～ティーパールの実践を通して～ |
| | 入選 | 土岐津中 | 武田 勇輝 | 数学 | 課題の解決に向けて、協働的に学ぶ生徒の育成 ～見通しがもてる導入の工夫と交流の場を充実させることを通して～ |

令和6年度 土岐市教育実践記録審査入賞者

| 審査結果 | 学校名 | 氏名 | 教科・領域 | 題目 |
|------|-----------|-----------------|----------|---------------------------|
| 教育長賞 | 泉中学校 | 毛利 知美 | 家庭／技術・家庭 | 47都道府県・郷土の味 |
| | 泉中学校 | 岡島 美沙子 | その他 | 外国人生徒が自立した学習をするための支援 |
| | 下石小学校 | 高瀬 理恵子 塚本 幸代 | その他 | 令和5・6年度 下石小学校「金銭教育」の歩み |
| | 泉中学校 | 廣岡 巧也 | 生徒指導 | 個別に支援が必要な生徒に係る支援シート |
| | 土岐市内全小中学校 | 土岐市ICT教育推進委員会 | その他 | 令和5・6年度「土岐市ICT教育実践事例集」 |
| 特別賞 | 泉小学校 | 仙石 健太 | その他 | 全校で授業改善に向かうための研推便り |
| | 泉中学校 | 橋本 壮平 | 生徒指導 | 常態的・先行的生徒指導のための全校放送 |
| | 泉中学校 | 松原 美咲 | 図工／美術 | 「やってみたい」を引き出す見本作品・見本資料 |
| | 泉中学校 | 江崎 紀子 | その他 | 3分ミニ講座で研究が楽しくなる「研推だより」 |
| 奨励賞 | 泉中学校 | 田口 奈典 | その他 | 自らの道を歩み進められる進路指導記録 |
| | 泉中学校 | 坂田 芳朗 | その他 | 学年目標「誇り」を達成するための日々の足跡 |
| | 泉中学校 | 田島 茉里奈 | 健康安全 | ほけんだより |
| | 泉中学校 | 丹羽 鴻輝 | 学級経営 | “仲間のよさ”を見つける視点づくり「担任の独り言」 |

令和6年度 教育実践論文審査講評

審査委員長 土岐市立肥田小学校 水野 浩庫

土岐市の小・中学校教育方針『『やってみたい』を引き出し、『できた』『わかった』と実感できる授業の実現』をふまえ、日々の教育実践をもとに指導法の成果と課題を提示していただきました教職員の皆様に感謝を申し上げます。

今年度の論文から学び、土岐市の教育がより一層充実することを願い、成果と課題を記します。

1 応募状況

出品総数は、小学校12点、中学校15点の合計27点でした。内訳は、一般の部対象が10点、新人の部対象が17点でした。このことから若い先生方の意欲的な姿勢と、それを支える学校のチーム力が感じられます。教科・領域別では、教科23点、各領域4点となっています。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が学校・授業の果たすべき役割と言われるように、子どもを学習の主体者にするための実践が多かったことが特徴的でした。

2 教育実践論文にみられたよさや成果

(1) 今日的課題の解決に取り組んだ点

「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICT機器の有効活用」「特別支援」「教育相談」等、今日的な課題を取り上げ、その有効性について検証された実践が多くありました。特に「ICT機器の活用」においては、これまでの教育実践の利点とICTの効果的な活用により学習活動が一層充実し、授業改善に結び付く実践となっていました。また、児童生徒への支援体制を見直し情報共有の在り方を工夫する等、再現性のある優れた実践もありました。

(2) 児童生徒の変容を丁寧に分析していた点

児童生徒の変容と学びの深まりが丁寧に分析されていました。特に児童生徒の思いや考えを常に確認し、躓きの要因を多面的に分析することで児童生徒の主体的な姿を導き出していました。また、図や表を活用して児童生徒の意識調査やノート等の記録を端的に示すことで、論点が整理され分かりやすくなっていました。

(3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った点

多様な児童生徒一人一人の教育的ニーズや学習の状況に応じた学びを可能にするための工夫がされていました。ICT機器を活用して、指導の個別化や学習の個性化が図られている点は児童生徒自身が納得して学び方を学ぶことに結び付いていました。また、協働的な学習について様々な工夫をすることで、多様な考え方の仲間との効果的な学びが実践されていました。

3 今後の課題

- ・研究課題について一層焦点化を図り、主張点（アピールポイント）を明確にすること。
- ・数値化や児童生徒の発言・記述について質的な分析を取り入れるなど根拠を明らかにして論述すること。
- ・今回の成果と課題をもとに、願いや根拠を示しながら来年度以降も継続して教育実践に取り組んでいただくことを願います。

令和6年度 土岐市教育実践記録 審査講評

土岐市教育研究所 主任 内海 裕樹

今年度で8年目となる教育実践記録には、①教師の指導力向上②日々の実践への活用という目的があります。今回、13点の応募があり、いずれも、工夫と継続、熱意溢れるものばかりでした。審査の結果、「教育長賞」5点、「特別賞」4点、「奨励賞」4点を選ばせていただきました。その中で「教育長賞」に選ばれました5点の実践記録について、紹介します。

◇『令和5・6年度 下石小学校「金銭教育」の歩み』 高瀬 理恵子 先生、塚本 幸代 先生（下石小学校）

校内研究と金銭教育との関わりを明らかにし、生活につながる授業実践の積み重ねが素晴らしいです。児童の主体性を育むために、身近なものを教材化したり、家庭や地域・外部講師を活用したりしたご実践が、参考となります。

◇『個別に支援が必要な生徒に係る支援シート』 廣岡 巧也 先生（泉中学校）

「ステップアップ・支援シート」を活用し、関係する先生方が生徒の実態を共通理解して、具体的な支援をされていることが素晴らしいです。また、一定期間で支援策を検討し、支援の改善を図っています。「ステップアップ・支援シート」の活用が参考となるご実践です。

◇『47都道府県・郷土の味』 毛利 知美 先生（泉中学校）

「お菓子からわかる日本の郷土の味」「日本の郷土料理」のパネルは、生徒の興味・関心を高め、視覚的にも分かりやすいものでした。生徒が調べたカードを積み重ねていける工夫があり、パネルの活用が他教科でも参考となるご実践です。

◇『外国人生徒が自立した学習をするための支援』 岡島 美沙子 先生（泉中学校）

24種類の「読み・書き」の漢字単語帳やルビ付きの社会のワークを活用して、繰り返し取り組める点が素晴らしいです。生徒が自分で学習を進めることができるように工夫されているところが、参考となるご実践です。

◇『土岐市 ICT 教育実践事例集』 土岐市 ICT 教育推進委員会

市全体で取り組む授業づくりを意識して写真や吹き出しで分かりやすくまとめてあり、市内の先生方にとって参考となるものです。また、本実践は、2年間の実践例としてまとめられ、市のICT教育の推進に役立つ事例集となっています。

土岐市の子どもたちに力を付けるためには、教師一人一人が指導力を付けることが必要です。日々、子どもの立場に立った指導を求めて実践し、振り返ることが大切だと考えます。今後も、子ども目線に立ち、日々の実践を積み重ねていただきたいと思います。来年度、さらに応募が増えることを期待しています。

令和6年度 第3回学力向上推進委員会

第3回学力向上推進会議では、本年度の取組「終末からの授業改善」「学力向上に向けた取組」について振り返り、来年度に向けて話し合いました。学力向上推進会議で検討した内容は来年度の実践に活かしていきます。

【来年度の実践に活かしていきたいこと】

終末からの授業改善

【小学校】

- ・ 「終末の児童の姿」を具体的にイメージした授業展開を今後も継続して実施する。
- ・ 発言した児童に対して、「なぜそう思うのか」「他の意見はないか」など、教師が問い返すことで他の児童も考える機会を設ける。
- ・ 認識のずれが生じた場合は、児童同士で考えたり、意見交換したりする機会を設ける。

【中学校】

- ・ 「終末の生徒の姿」を具体的にイメージした授業展開を今後も継続して実施する。
- ・ 授業の振り返りの場を位置付け、学習内容の定着を図ることを今後も継続していく。
- ・ 「終末」に十分な時間を確保するために、どこに時間をかけるか、「導入」「展開」「終末」の時間配分を見直す。

学力向上に向けた取組

【小学校】

- ・ NEW!GIFU ウェブラーニング(チェック&スタディ)を優先的に取り組む。
- ・ 児童が自分の苦手な分野を中心に学習を進めるなど、自己調整して活用できるように、教師が具体的な活用例を児童に示す。

【中学校】

- ・ 教師は、生徒が記述した振り返りの内容を丁寧に確認し、生徒に具体的なフィードバックを行う。
- ・ 教科の見方・考え方を活用し、教科の特性に応じた振り返り内容を生徒に提示する。

令和6年度 東濃地区学校図書館教育賞

- 🏆総合優秀賞 土岐市立下石小学校
- 🏆優秀賞 土岐市立妻木小学校
- 🏆奨励賞 土岐市立駄知小学校
- 🏆奨励賞 土岐市立西陵中学校



【総合優秀賞 下石小学校講評より(一部抜粋)】

📖学校図書館の運営が全職員の協力のもと、意図的かつ発展的に行われています

下石小学校

〈読書ルームの新設〉

季節や旬の話題に関連するコーナーを設け、児童がゆったりと本に親しめる空間が設置されています。

📖子ども達が本を身近に感じられるよう、様々な取組を行っています

〈市立図書館との連携〉

調べ学習に必要な本を土岐市図書館から借用し、必要な図書資源を確保するなど、協力体制を築いています。

〈学年フロアへの本の設置〉

教科の学習に関連する本を各学年のフロアに設置し、子ども達がいつでも手に取れるようにしています。

📖読書記録を活用した読書活動を推進しています

〈読書記録による自己理解〉

読書記録をつける際、冊数や本の種類に加えて、読んだ本から学んだことを振り返る欄を設けることで、子ども達が自分の読書傾向や、読書が自分にどんな影響を与えているかを実感できるようにしています。



「このクラスでよかった」

下石小学校 教頭 長谷部 収英

歌手を目指すために小学5年の時に岐阜を離れ、沖縄アクターズスクールでレッスンを受けたA子の話である。学校の先生なら『目標をもつこと』『夢に向かって励むこと』などを一度は口にしたのではないだろうか。では、夢が叶わず岐阜に戻り、「目標」そのものがなくなった子には、どんな言葉をかければよいのだろうか。

中学2年の9月から沖縄の中学校から転校してきたA子。何に対してもやる気のない毎日で、苛立ちと寂しそうな表情を見せながら教室をとび出していく。授業を受けられないときは必ず職員がついて対応することが日課となった。

そんなA子にとって転機となったのは、3年の担任との出会い。担任はA子の悩みを受け止め、何度も話し続けたことで、次第に学級の仲間と積

極的に関わっていくようになった。9月には体育祭の団リーダー、そして後期には学級委員を務めるほど、学校生活に目標をもって活動するまでに成長した。

そして、A子が卒業するときには「このクラスでよかった。この仲間がいなければ、私はずっと変われなかった。」と話した。その一言で担任も学年主任も泣き崩れた。

それから約20年。日本レコード大賞を受賞した岐阜県出身の歌手として、今なお活躍中だが、夢が叶うまでには、何度も挫折を味わい、そして仲間や周りの人に助けられたと感謝をしていた。

だからこそ、A子は「人とのつながり」を今でも大切にしているのだと思う。今日もいい日だ。

【令和6年度 第46回教育文化賞 受賞者の皆さん（敬称略）】

<教育功労賞>

下石小学校 校長 後藤 淳
 泉小学校 校長 河地 敦子
 泉西小学校 養護教諭 吉本 光枝 西陵中学校 教諭 林 美智子
 濃南中学校 教諭 今井 竜彦

<学校教育賞>

下石小学校

<文化賞 個人>

| | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 宮地 亮輔 (土岐津小3年) | 田中 莉乃 (濃南小6年) | 井戸 俊太朗 (駄知小2年) |
| 井上 真那 (泉小3年) | 鈴木 健心 (土岐津中3年) | 倉智 詩子 (濃南中2年) |
| 山上 紅葉 (濃南中3年) | 阿部 悟士 (駄知中2年) | 中村 斗哉 (泉中1年) |
| 岩原 天 (泉中3年) | | |

<文化賞 団体> 「泉中学校吹奏楽部」

| | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 塚本 彩歩 (3年) | 水野 日登 (3年) | 渡邊 里創愛 (3年) | 熊谷 帆夏 (3年) |
| 保母 愛莉 (3年) | 初鹿 七夏 (3年) | 澤田 蒼生 (3年) | 大塚 柊太 (2年) |
| 加藤 天澄 (2年) | 高田 みちる (2年) | 高橋 愛子 (2年) | 岩田 朔也 (2年) |
| 和田 紗幸 (1年) | 寺澤 采音 (1年) | 伊佐治 真帆 (1年) | 伊藤 渚彩 (1年) |
| 岩島 舞乃 (1年) | 小川 海路 (1年) | | |

<スポーツ賞 個人>

| | | |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 水野 翔大 (土岐津小1年) | 岡田 爽志 (土岐津小3年) | 大矢 芽依 (土岐津小5年) |
| 脇田 尊叶 (土岐津小5年) | 井下 蘭 (土岐津小6年) | 土屋 歩実 (土岐津小6年) |
| 大草 優希香 (下石小6年) | 深萱 康汰 (濃南小3年) | 河合 優希 (駄知小5年) |
| 丹羽 ころこ (泉小2年) | 岩崎 大空 (泉小5年) | 高木 愛莉 (泉小6年) |
| 丹羽 煌貴 (泉小6年) | 中嶋 璃陽 (泉西小6年) | 鷺見 ほえみ (土岐津中1年) |
| 宮本 芽依 (土岐津中2年) | 山本 蒼生 (土岐津中2年) | 村上 鼓太郎 (西陵中1年) |
| 川本 翔弥 (西陵中2年) | 村上 希愛 (西陵中2年) | 可知井 梗介 (濃南中2年) |
| 吹春 瞬 (肥田中3年) | 畑中 康佑 (泉中1年) | 岩木 姫菜乃 (泉中1年) |
| 広沢 聡美 (泉中1年) | 藤岡 友 (泉中2年) | 山口 仁之恭 (泉中2年) |
| 原田 瀬蓮 (麗澤瑞浪中1年) | | |

<スポーツ賞 団体>

「おりべドリームズ」

| | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 佐藤 彩心 (土岐津小1年) | 佐藤 心咲 (土岐津小3年) | 広沢 静菜 (泉小5年) |
| 高木 美楨 (泉小5年) | 木村 彩蘭 (泉小5年) | 広沢 知澄 (泉小1年) |

「瑞浪・瑞浪南・瑞浪北・西陵・北陵・小泉中学校合同チーム」

| | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 各務 里菜 (西陵中3年) | 林 里愛 (西陵中3年) | 曾根 光織 (西陵中3年) |
|---------------|--------------|---------------|